瑞光山禅林寺　〒510-1225　三重郡菰野町下村 191 番地℡・Fax059 - 393 - 2040　メール zenrinji@cty-net.ne.jp

でんでら通信　第一百五十号　令和八年十月

坐禅会

今月の坐禅会は休会とします。

ＡＩ（人工知能）と禅

暑かった夏もようやく終わりを告げ、朝晩は涼しさを越えてひんやりと寒さを感じるほどの気候となりました。季節の変わり目で体調を崩されている方もお見えになるのではないでしょうか。

さて、最近ＡＩ（人工知能）は、ロボット、ネット、スマートフォン、自動車、家電製品などあらゆる所にあり、社会に広まっています。

先日、米中首脳会談が行われ、ＡＩを今後どのように進めていくかについて話し合われました。互いに競争しＡＩを開発している現状ですが、危機管理のために2国間の連絡経路を設けることで合意したと発表しました。

両国が競ってＡＩを進めていくことは、人間社会にとって本当に有意義なのか、またＡＩが独自に先走って、人へ害を及ばさないのかという声も叫ばれています。

ではいったいＡＩとは何なのでしょうか。

そこでＡＩの仕組みを簡単に記します。

1、データ収集：分析や学習に必要な大量のデータを集めます

2、学習：集めたデータからパターンや規則性を見つけ出します

3、モデル構築：学習結果に基づいて予測モデルを作成します

4、予測・判断：新しいデータに対してモデルを適用し結果を出力します

ＡＩはインターネットであらゆる情報を集めて、最も効率的な結果を導き出します。今まで時間のかかっていた事柄があっという間に最高の結果を出します。こんないいことはありません。これはあらゆる分野に広がっていきます。すべての分野において、長年の技術が伴っていた技も、最新の学問、技術を網羅して短時間で最高に仕上げます。

そんなＡＩという究極の「思考する機械」を前に、宗教、その中でも禅という人の思考では捉えきれない価値の宗教は相反するものかもしれません。

禅の修行（坐禅や作務）とは、自分自身の生身の身体で体験することです。呼吸する感覚、足の裏の感触、風の音。それは、ＡＩには決して代行できない、生身の自分が行う根源的なものです。

ＡＩへの過度な依存は、私たちの身体や思考力を「退化」させる危険性をはらんでいます。体験して得る感情というものが、ここにはありません。効率を求めるばかりに、つらいとか苦労とかを乗り越えるという能力、他者への痛みに対する感情も失われていくかもしれません。

修行道場では今でも、江戸時代のような自給自足に近い生活が行われています。また托鉢時には、赤の他人からの喜捨（布施）により金品を受け取り修行の糧としています。そこには、損得という理念はありません。

禅の核心である「己事究明（こじきゅうめい＝自己とは何か）」とは、人が被っている欲望、名誉、地位とかの「着物」をすべて脱ぎ捨て、「今、ここに、確かに存在する自己」そのもの（＝本来の自己）を内側から自覚するための修行です。

曹洞宗の宗祖、道元禅師の逸話にこんなはなしがあります。

暑い日の昼間、腰の曲がった老典座（老いた食事係）が、杖をつきながら汗だくになって本堂の脇で海藻を干していました。見かねた道元禅師が、

「こんな暑い日ですから、誰か若い人にでもさせるか、せめてもう少し涼しい日にしたら良いのではないですか」

と声を掛けると、

「他は是吾にあらず　更に何れの時をか待たん」

（他の者にさせたのでは自分の修行にならん、今せずにいつするというのだ）

と返され、大きなショックを受けたといいます。

コストパフォーマンスとかタイムパフォーマンスとか求める昨今、ＡＩは今の時代に一番求められるものなのでしょう。しかし便利さ故に、人から何か大切なものが見失われていくのではないでしょうか。

ＡＩ開発会社のサム・アルトマンＣＥＯは、国連安全保障理事会で演説し、ＡＩはいつまでも人間の枠内に留まっているとは限らないと述べました。ＡＩが将来、人間を支配する、まるで映画のような時代がくるかもしれません。